

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・知識・技能が定着しており、基礎は目標値を上回ることができた。
- ・ICT 機器での音声教材やペアワークを増やしたことにより、聞き取る力を身に付け、学力効果測定では聞く領域で大幅に目標値を上回ることができた。

(2) 課題

- ・アルファベットは書けるようになっているが、学習効果測定では、英作文を読む力と記述が目標値を大きく下回っていた。
- ・思考・判断・表現が課題となっており、活用が目標値を下回っていた。
- ・普段の授業の様子として、ALT からの問いかけやペアワークでは必要最低限の応答のみする児童が多いため、外国語に対して主体的に学習しようという意欲をもち、言語活動で一言追加する(+1)など発展的な活動を取り入れることが重要になると考える。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ICT 機器の音声やALT の話を聞くことを通して、十分に音声を聞かせて、良質な英語をインプットする場面を増やす。 ・スモールトークやチャンツを授業の始めに行うことで、基本的な会話の形を知る。 ・学習の振り返りをさせ、難しかったと感じたことについては、次の時間に、もう一度復習する活動を取り入れる。	・ペア活動やグループ活動を通して、考えや気持ちを伝え合う活動を設定し、+1ができたことを積極的に評価する。 ・ペア活動やグループ活動で徐々に慣れさせていき、クラス全体の前でも、外国語で考えや気持ちを表現できるように段階的に指導する。	・まずは教師やICT 機器の音声を十分に聞かせたりお手本を見せたりして、インプットを増やし、活動に参加できるようにする。 ・自信をもって友達ともコミュニケーションが取れるように、教師とこども1対1でやり取りができる場面を作る。 ・スモールトークやチャンツを授業の始めに行うことで、外国語を用いることを意識させる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ICT 機器の音声やALT の話を聞き取り、内容をワークシートやテキストに書いたり読んだりして、内容を聞き取る力を身に付ける活動を取り入れる。 ・話型を元にした指導を、読むことや書くことにも活用する。話型を元に、単語を変えて表現の仕方を学んでいき、決まったフレーズを覚えて、読んだり、書いたりする指導を行う。 ・3年生で学習したローマ字を基に、アルファベットの大文字・小文字で自分の名前を書けるようにする。 ・学習の振り返りをさせ、難しかったと感じたことについては、次の時間に、もう一度復習する活動を取り入れる。	・話型を示して、単語を変えていけば、いろいろな表現に活用できることを指導し、考えや気持ちを伝える力を身に付ける活動を取り入れる。 ・ペアやグループ活動を通して、考えや気持ちを伝え合う活動を設定し、+1ができたことを積極的に評価する。 ・話型を元にして、全体の前でもスピーチや発表する場を作る。ペア活動やグループ活動で徐々に慣れさせていき、クラス全体の前でも、外国語で考えや気持ちを表現できるように段階的に指導する。	・自信をもって友達ともコミュニケーションが取れるように、教師と子ども1対1でやり取りができる場面を作る。 ・語句を覚えやすくするために、歌やリズム、ジェスチャーを取り入れる。 ・英語を使ったゲーム的活動（カード、体や物を動かす等）を取り入れる。 ・教師やICT 機器の音声を十分に聞かせたりお手本を見せたりして、インプットを増やし、活動に参加できるようにする。 ・中休みの英語カフェを活用し、英語のゲームを通して、コミュニケーションを図れるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ICT 機器を活用して、活字体を識別したり、そこで学習した単語について読んだり書いたりする。 ・既習語句や表現を繰り返し活用させ、身に付けられるよう指導する。 ・既習のアルファベットについても、罫線上のどの場所を書くか繰り返し復習させ、学習した語句や表現(文章)について、見ながら写して書く活動を取り入れていく。 ・学習の振り返りをさせ、難しかったと感じたことについては、次の時間に、もう一度復習する活動を取り入れる。	・日常生活や身近なことに關しての繋がりを持った活動を取り入れる。 ・ペアやグループ活動を通して、考えや気持ちを伝え合う活動を設定し、+1ができたことを積極的に評価する。 ・話型を元にして、全体の前でもスピーチや発表する場を作る。ペア活動やグループ活動で徐々に慣れさせていき、クラス全体の前でも、外国語で考えや気持ちを表現できるように段階的に指導する。	・自信をもって友達ともコミュニケーションが取れるように、教師と子ども1対1でやり取りができる場面を作る。 ・語句を覚えやすくするために、歌やリズム、ジェスチャーを取り入れる。 ・英語を使ったゲーム的活動（カード、体や物を動かす等）を取り入れる。 ・教師やICT 機器の音声を十分に聞かせたりお手本を見せたりして、インプットを増やし、活動に参加できるようにする。 ・中休みの英語カフェを活用し、英語のゲームを通して、コミュニケーションを図れるようにする。